

認知症は身近な病気です

認知症とは？

認知症とは、正常であった記憶や思考などの能力が脳の病気や障害の為に低下し、生活するうえで支障が出ている状態(およそ6ヵ月以上継続)を指します。一般的には高齢者に多い病気ですが、65歳未満で発症した場合は「若年性認知症」といいます。また、記憶などに問題が生じてはいますが、日常生活には支障がない認知症の前の段階のことを「軽度認知障害(MCI)」といいます。

主な認知症の種類と特徴

前頭側頭型認知症

脳の前頭葉と側頭葉の脳神経細胞が減少し、萎縮していく病気です。

65歳未満の若年層で発症が多く見られます。

チェック

- 性格が別人のようにみえる。
- 日に何度も同じコースを散歩する。
- 万引きや交通違反などの逸脱行為がある。

アルツハイマー型認知症

認知症の中でもっとも多く、全体の約6割を占める病気です。脳の神経細胞がゆっくりと減少し、それにより脳全体が萎縮(縮んで小さくなること)するためおきる病気です。

チェック

- 置き忘れやしまい忘れが増えた。
- 少し前の体験をすっかり忘れる。
- 同じ話を何度もする。
- 時間や場所がわからなくなる。

この他にも様々な認知症があります



脳血管性型認知症

脳梗塞や脳出血などにより脳細胞に十分な血液がいきわたらなくなり、脳細胞が部分的に死んでしまうことによりおきる病気です。

チェック

- 昼夜が逆転している。
- 感情の起伏や喜怒哀楽が激しい。
- いずれかの身体症状がある。(麻痺・むせるしゃべりにくい・歩きにくい)

レビー小体型認知症

「レビー小体」という特殊なタンパク質が、脳の神経細胞の中にたまることによっておきる病気です。

チェック

- ありありとした幻視。
※見えないものが見えると話す。
(人や動物などが多い)
- パーキンソン症状がある。
※パーキンソン症状とは…
小刻み歩行やすくみ足。突進型歩行等の症状を伴うもののことです。